



特集

LPガスのある暮らしと、安全への取り組みについて



第6回

リンドウ

秋

(春と修羅 第三集七四〇)

恐れた歳のとりいれ近く
わたりの鳥はつぎつぎ渡り
野ばらの藪のガラスの實から
風が刻んだりんだうの花

「りんだう(リンドウ)」は、リンドウ科の多年草。
葉には三行脈が目立つ。
花冠は筒状で、先端は五裂し、つばみは左巻きである。
花は日光を受けて開き、夜は閉じる。
根は胆汁のように苦く、薬効がある。
濃い紫の花は秋の野に映える。
生け花には三分咲きより満開のものが長持ちするという。
野ばら^{やば}の藪のガラスの実とは、ある種の野バラの実は堅く、
表面はガラス状の光沢があることを指す。
「恐れた歳」とは、作品の昭和元年の五、六月は低温と水不足で
「不作を恐れた歳」と表現か。

参考資料：岩手日報社発行『続 賢治のイーハトーブ植物園』より

純情産地発 クララー KLARA vol.795 2015.10

みんなの力で!



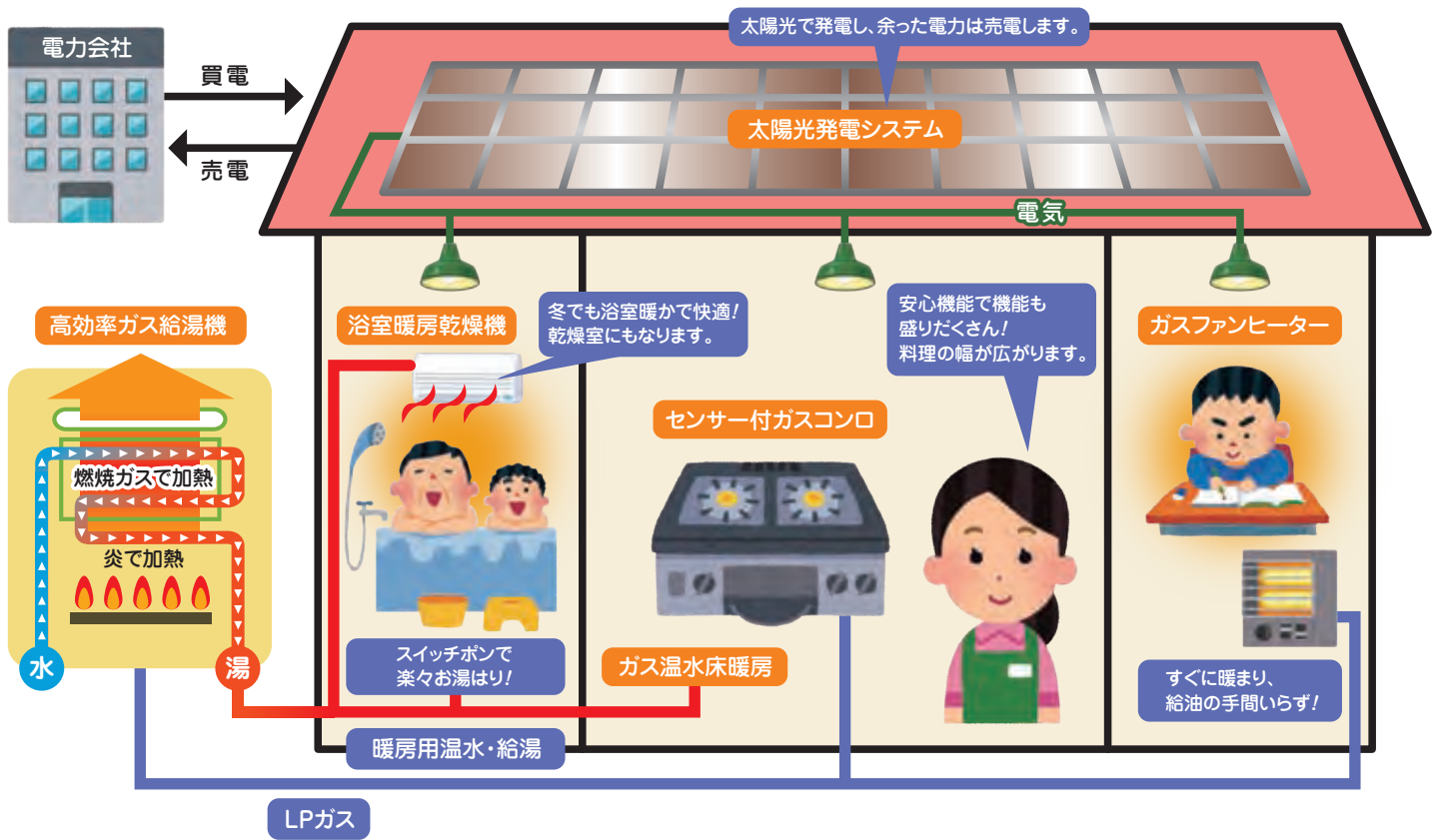
がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

賢治とイーハトーブの野菜たち	02	みんなの分教場	07
特集 LPガスのある暮らしと、安全への取り組みについて	03	イーハトーブの担い手便り	08
食から健康 ドクターズレストラン	06	純情むすめ活動記	09
		NEWS ワイドアングル	10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳にのしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

LPガスのある快適生活



はじめに

ご家庭で使われている主要エネルギーは、ガス、灯油、電気の3つです。平常時のみならず、災害時にも安定したエネルギーを確保するために、1つのエネルギーに頼らず、分散してバランス良くエネルギーを活用することが望ましいと言えます。中でもLPガスは地域に密着した分散型エネルギーであり、災害に強いエネルギーです。現在、岩手県におけるJAのLPガス消費世帯は、4万8000世帯あります。

JAのLPガスを活用し、省エネ・節電を目指した暮らしの提案と、LPガスの安全への取り組みを紹介します。

1. 暮らしにおけるLPガス

(1) 給湯・暖房

ア. 高効率給湯機（エコジョーズ）

ガスを燃焼する際に生じる熱を利用して、予め水を加熱することで、燃焼効率を高めて給湯の際のガスの消費を削減します。

イ. 燃料電池（エネファーム）

ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させ、電気を作りだし、同時に発生する熱を利用して、給湯や暖房に利用します。

ウ. ガスファンヒーター

気化したガスを直接燃焼させるので、スイッチを入れ



るとすぐに暖房効果を発揮し、短時間で部屋を暖めます。給油の手間がなく、消火後のにおいもありません。

エ. 浴室暖房乾燥機

ガスでつくったお湯で温めた空気を使って、浴室の暖房・乾燥・換気のため、浴室を快適で便利な空間にします。

(2) 料理

・ガスコンロ

炎の力で一気に過熱し、設定温度まですばやく上昇します。均一に温度が上がるので、煮ものムラなく仕上がります。



ガスコンロのグリルは、ガスの直火で、魚などの食材をこんがり香ばしく焼くのに適しています。また、惣菜やてんぷらの温め直しに使うと、余分な脂分をカットし、外はカリッと中はふっくらと仕上がります。オプションとしてグリ



ル中で使える調理プレートがついているタイプなら、オープンとして使えます。



2. LPガスの安全への取り組み

JAでは、安心してLPガスをお使いいただくために、ガス設備、保安システムならびに人的対応の3つが連携して安全への取り組みを行っています。

(1) ガスメーター

メーター内にコンピューターが組み込まれ、ガスの使用状況を監視し、いざという際に自動的にガスを止め、安全を確保します。

ア. コンロやお風呂のつけっ放しなど、必要以上に使用時間が長い場合。

イ. ガス使用中に震度5以上の地震が発生したとき。

(2) ガスコンロ

現在は、家庭用すべてのコンロにセンサーが搭載されていて、安全を確保しています。

ア. 空焚き時自動消火機能。

イ. 天ぷら油の発火を防ぐ加熱防止機能。

ウ. 吹きこぼれなどで火が消えた場合、ガスを止める安全機能。

(3) 24時間安全化システム

JAでは、ご自宅と監視センターを電話回線を使って24時間ご家庭の安全を見守る体制の普及をはかっています。

(4) 保安のための訪問活動

ガスを安全・安心にお使いいただくために、ガス販売店は、消費者宅への訪問、設備点検を実施しています。

ア. 周知

使用上の注意点や事故を起こさないための情報などを定期的に文書でお知らせします。年1回（または2年に1回）以上行います。

イ. 定期供給設備点検

ガス漏れの有無など調整器からガスメーターの供給設備の点検を行います。4年以内に1回。

ウ. 定期消費設備調査

ガス器具、給排気、ホース、配管など消費設備の調査を行います。4年以内に1回。

エ. 緊急時連絡と緊急時対応

万一のガス漏れなどの時には、すみやかに自宅に伺い対応します。夜間・休日も対応しています。

おわりに

給湯や料理はガスや灯油を使い、電気を活用して家庭の照明や家電製品を使う快適なライフスタイルの実現。

JAグループでは、ホームエネルギーのベストミックスを組合員の皆様に提案して参ります。



みんなの分教場

営農対策部 営農技術課
技術主管
笹田 昭市

気候変動に負けない りんごづくり



土壌の乾燥防止と
根域の拡大

灌水が難しいとなれば、土壌の乾燥を防ぐ対策として、昔から行われてきた草生栽培が考えられます。最近では、ハダニの耕種的防除を目的とした草生栽培に取り組む農家も増えてきました。草丈の短い草種で地面を覆うことは、地表からの

4月～6月までの乾燥傾向は前回も記述しました。それだけでなく、最近の7月～8月をみても乾湿の差が激しくなっています。今までは、岩手の初夏には梅雨があり、その降雨のおかげで極端な乾燥にはならずすみしました。将来的にこのような極端な気候が続くとすれば、灌水施設の整備も必要となります。しかし、本県のりんご園の現状では、使用する多量の水の水源確保が大きな課題となります。点滴灌水のような節水型の灌水システムを使つたとしても、部分的に対応することでは精いっぱいだと思います。



春の降水量の減少と
夏場の極端な乾湿傾向

6月号では、最近の岩手県での気候変動について紹介しました。今年の7月～8月は、過去に例のない位変動の激しい気候となりました。永年作物である果樹は、一旦植えたら20年位は樹を維持しながら生産を続けていくことになります。今後の気候変動への対応は、植栽する時から考えていかなければなりません。将来どんな気候になっても生産を続けていける対策を考えてみたいと思います。



充実した花芽を作るための
基肥の施用時期

昔から「りんごづくりは花芽づくり」といわれています。が、「いい花芽」をいかに作るかを考える必要があります。7月から作られ始めます。充実した花芽

青森県での事例のように、地下部の台木をマルバにし、わい性台木を中間台として使う方法もありかと思ひます。樹形が少し大きくなることは覚悟して、この方法で岩手型低樹高ができるかを試行してみてもいいのではないのでしょうか。

また、苗木の植栽時には、わい性台木の地上高の基準はありましたが、地下部にについてはあまり深くしないようにとしか言われていません。

水分蒸散を防ぐ効果が期待できます。また、樹列間の刈った草を樹冠下に敷いて水分の蒸散を防ぐことも有効です。ここ数年の現象として、改植したばかりの幼木が乾燥の害を受けて、樹勢が衰弱したり枯死したりする事例が見られています。わい性栽培では、根域が浅いために、乾燥の害を受けやすいのです。樹の根が、土壌水分の安定している50～60cm位まで伸びることができれば、表面の乾燥にも対処できます。そのためには、植栽する時に植穴を80cm位まで掘って、しっかりと土壌改良することが考えられます。



自分の園地は自分の工夫で

りんごが生産されている園地は、土壌や気候、さらには地域的な環境や管理する労力等様々な条件が違います。今まで経験したことのない気候変動に対応していくには、園主さん自身が自分の園地でできる対策を考え、実践していかねばなりません。

食から健康

Doctor's restaurant

～ドクターズレストラン～



協力／ドクターズレストラン「Green*Green」盛岡市松園2-2-10 TEL.019-665-2345

自宅で作ってみましょう

料理監修／管理栄養士 白井名津子

材料(パウンドケーキ型1本分)

さんま5尾、さつまいも(中)1本、★カレー粉小さじ1/2、★バター10g、★牛乳大さじ2、★塩適宜、★こしょう適宜、いんげん(茹でる)8本、なす(中)3個、オリーブ油大さじ2、塩適宜、こしょう適宜

- 1 さんまは三枚におろす。なすは5mm程度の薄切りにし、さつまいもは皮をむいて柔らかくなるまで茹でる。
- 2 茹でたさつまいもを熱いうちに潰し、★を混ぜる。
- 3 なすはオリーブ油で軽くしんなりするまでソテーをする。
- 4 さんまは塩こしょうをしかりし、少量のオリーブ油で皮目から両面をさつと焼く。



【ポイント】さんまは厚めのものを使うと存在感とボリュームが出る。半生状態で調理するため、調理後は早めに食べる

【その他のメニュー】きのこ青菜の和えもの…きのこは旨みを逃がさないよう、切ったら耐熱容器に入れてラップをしてレンジで加熱し、白だしやめんつゆなどで味を付けたら茹でた青菜とにんじんの上新からかける。エネルギー24kcal。梨のコンポート…買って甘くなかった梨を砂糖と水、白ワイン、レモン汁を入れて沸騰させたシロップが熱いうちに入れ、冷めたら冷蔵庫で冷やす。エネルギー80kcal。

旬の食材

さんま：さんまに豊富に含まれるDHAやEPAなどの不飽和脂肪酸は、血液の流れを良くしたり固まりにくくしたりする働きがあるため、脳卒中などの血管の病気の予防にも良いとされている。ただ良い脂とはいえ、旬のさんまには多くの脂が含まれるため、食べすぎるとカロリーオーバーになるので注意が必要。岩手では当たり前のように刺身で食べることが多いが、脂の多い青魚は足が速いので生食で食べられる地域は限られる。

きのこ：食物繊維が多く低カロリーなため、ダイエット中にもオススメの食材。きのこ類にはアミノ酸が多いため、だしとして料理に旨味を与えてくれるが、そのままよりは天日に干したもののほうが旨みは強くなる。



さんまと秋茄子の テリーヌ

テリーヌとは、すり潰した魚や肉と切った野菜などを型に詰めてオーブンで蒸し焼きにする料理ですが、本来は陶器などで出来た詰める型のことをテリーヌと言います。今回は秋の食材(さんま、秋茄子、サツマイモ)をふんだんに使い、オーブンがなくても、専用の型がなくても作ることができ、お客様が来た時のおもてなしにも使えるお料理です。秋の夜長にワインを楽しみたいときのおつまみにいかがでしょうか。

「幼い時から憧れていた農業に挑戦」

農政担当から新規就農者に

細谷知成さん(39歳)さんは大船渡市立根町に居住し、自宅と圃場は大船渡市の中心から北に6kmの国道45号線沿いにある、南三陸沿岸の温暖な気候を活用した野菜栽培に取り組み、豊かな農家生活を求めて農業に挑戦しています。

知成さんは平成26年3月に大船渡市職員を退職就農して2年目を迎へ、両親と露地ピーマンを柱に野菜の栽培を行っています。就農の動機をうかがったところ、幼少期に両親が取り組んでいた

細谷知成さん「大船渡市」

農業を見たり、手伝ったりして農業に憧れを持ち、市役所農林課に在職中に農政に携わったことで就農を決断、平成25年には仕事の傍らピーマン栽培をはじめ、平成26年3月に38歳で転職し就農。現在水稲10㍏、野菜25㍏を栽培しています。

細谷家の宅地と農地は三陸縦貫自動車道の建設用地にかり、20年前に宅地と農地の代替え地として現在の場所に移転して、住宅を建設し60㍏の農地を取得されたもので、この農地を活用して農業をはじめられました。

新規就農者から認定農業者へ

知成さんの経営内容は、水稲10㍏、ピーマン15㍏にネギ、タマネギ、ジャガイモ、プロッコリーなどの野菜を栽培、JA出荷に加えて一部の野菜を産直や市場にも出荷しています。



細谷さん親子と佐々木TAC・菊池TAC



ピーマン挿芽の育成状況



保育園の体験学習の様子

細谷知成さんの経営概況

- 住 所: 大船渡市立根町字細野4-72
- 労働力: 本人、両親
- 営農規模: 田10a、畑50a
- 施設機械: 作業舎1棟、トラクター、田植機、管理機、ロータリーマルチ、動噴 等

経営の柱であるピーマンについては、昨年1000本で28㍏だったものが今年は1500本で6㍏と栽培面積の拡大と単収向上により販売量を拡大、今年全農の担い手対策「新規就農者育成対策」を活用していただいております。

研究熱心な知成さんはピーマンの挿芽による育苗を9月以降のピーマンの生産に使える技術にしたいと取り組んでいます。大船渡地方は露地ピーマンでも11月中旬まで収穫が可能だと言うこともあり、少ない面積で収益性の高い野菜生産を実践して欲しいものです。また、露地野菜に加え、施設園芸の導入についても検討されており、今後農業所得350万円以上を目指した農業経営改善計画を策定し認定を受けられ、認定農業者として地域農業を担っていただくことを期待しています。

家族を大切にしたい農業を目指したい

知成さんの家族は、妻(看護師)、両親と2人の息子(7歳、3歳の6人家族で、息子が自主的に農作業を手伝ったり食べ物に興味を持ち始め、農家・農業の持つ豊かさを感じているとのことです。家族を大切にしたいとの思いを実現するために、昨年2月夫婦と両親4名で「家族経営



TAC活動

営協定を締結して「明るく、豊かな農家生活の実現」を家族全員で確認し実践されています。

また、地元保育園児の農業体験学習の受入など、幼少期の食育活動や栽培体験に支援をおこなったり、パレールールの選手として社会人クラブチーム「大船渡三陸クラブ」の監督として県大会で準優勝に導き全国大会への出場や、母校の中学校バレー部のコーチとして後継者の育成にあたりたり、消防団員として防災活動にあたるなど積極的に関わり活動に参画されています。

農業の取り組みに加えてスポーツを通じて社会貢献を果たすなど、豊かな人生、楽しい農業経営や農家生活を実践することにより、二人の息子に農業の大切さや尊厳を理解してもらおうと、家族を大切にしたい農業で生活ができる経営の確立を目指して活躍されますことをご期待申し上げます。



2015いわて純情むすめ
北川 莉帆

いわてのお米をPR！

IBCまつり2015



笑顔が
はじける

純情むすめ 活動記

一生懸命
PRしました！

ヨーグルトの試食を行いました。

12日のおにぎりの販売では、物を販売する

という初めての経験に、どのような声掛けをすれば、皆さんが立ち止まって見てくださるか分からず、商品の良さを人に伝える難しさを実感しました。しかし、今回一緒に参加したもうひとりの純情むすめ、菜那ちゃんと書いた手書きのボードを見て立ち止まってくださる方も多く、とても嬉しく感じた瞬間でした。『このお米使ってるの？』と聞かれることもあり、『岩手県産のひとつめばれです！』と答えると、『へえ、そうなんだ！』と言って買われる方も多く、皆さんが常に食材にこだわっていること、安全・安心なものを求めていることに気づきました。買われていく方は、小さいお子さんから、ご年配の方まで様々で、中には2度も買ってくださいました。全ても販売することができた方もいました。午後1時半には、用意されたおにぎりが完売し、改めて岩手のお米の良さを実感しました。

また、お客さんの中には農家さんも多く、「頑張ってるねー」「いつも見てるよ」「岩手の農畜産物をみんなで宣伝してこうね」など、とても暖かい言葉をいただくこともありました。農家さんのためにも、消費者の方に安全・安心な岩手の農畜産物を広めていくためにも、より一層、純情むすめとして頑張っていきたいと感じました。

こんにちは。2015いわて純情むすめの北川莉帆です。

私は9月12日、13日に、滝沢市のアピオで行われた「IBC祭り」に参加させていただきました。地元滝沢市で初の業務という、小さい時に何度も訪れたイベントに参加できるということで始まる前からワクワクしていました。

今回のお仕事では、12日はJAのブースで岩手県産ひとめばれを使用したおにぎりの販売とごはんに関するアンケート調査を、13日はミルクフェアのブースで宅配専用の



JA全農いわての純情人

趣味・特技

ピアノ、読書

現在の担当業務

現在は、JAの資材店舗を巡回し、肥料の推進を行なうことが主な担当業務です。また、JAの資材店舗の渉外担当者や肥料メーカーに同行して農家訪問し、肥料の推進を行なうといったこともやっています。

これからどんな職員になってみたいか

肥料農業の分野に限らず幅広い知識を持つ職員になりたいと思っています。そのためにはまず、資格取得などを積極的に行い、知識の習得を図っていきたいです。現在は肥料担当ですが、いずれは農業も担当したいと思っています。



資材部 肥料農薬推進課
はんだ ゆうすけ
半田 優介さん(23歳)

～いわてから全国へ～リンゴ・ブドウ出発式

9月10日(木)

JAいわて平泉 リンゴ・梨出発式

JAいわて平泉東部園芸センターにて「平成27年度リンゴ・梨出発式」が開催され、生産者やJA関係者約80人が、最盛期に向けて販売戦略の共有や決意表明をおこないました。今年度はリンゴ900トン、梨95トンの販売目標を設定。「黄金の郷で、心込めて作ったくだものを全国に」を合言葉に、県内・全国各地でのフェア開催や、内部品質非破壊センサーの活用による蜜入りリンゴの販売など、「JAいわて平泉」ファン層拡大に向けた取り組みをおこないます。

式典には2015いわて純情むすめも駆けつけ、テープカットやドライバーへの花束贈呈セレモニーをサポートし、会場に花を添えました。



安全・安心で良品質な果実の出荷を誓いました

9月14日(月)

JAいわて花巻 シャインマスカット出発式

「シャインマスカット」の県内消費者への認知度向上・産地PRをはかり、JAいわて花巻の大迫野菜集出荷場で「平成27年度シャインマスカット出発式」がおこなわれました。

「シャインマスカット」は種無しで皮ごと食べられることとそのおいしさから全国的に人気の商品。本県でも昨年度より関係機関・市場・出荷JAが連携し「オールいわて」として取り組んできましたが、本格出荷2年目となる今年度は、新たにギフト向けの化粧箱による試験販売を実施します。

式典では荷積み、テープカットや乾杯のセレモニーがおこなわれたほか、シャインマスカットが試食で振る舞われ、出席者らは大粒で芳醇な果実を楽しみました。

ブドウ生産部会大迫支部の佐々木和弘支部長(JAいわて花巻)は「おいしいブドウを提供するために日々努力を重ね、技術向上に取り組んできた。最盛期に向け、天候不順に負けず作業していく」と意気込みを話しました。



「シャインマスカット」出発を祝してテープカット 一つひとつ包装してお届けがおこなわれました



岩手県の代表を選抜

9月2日(水)、3日(木)、25日(金)

第59回岩手県畜産共進会

一般社団法人岩手県畜産協会による第59回岩手県畜産共進会が、雫石町のJA全農いわて中央家畜市場にて開催されました。



県内各地より選抜かれた家畜が集いました

畜産農家の技術研さんを目的として毎年実施されるこの共進会では、県内全域から優良な家畜が多数出品され、その展示と評価が行われます。

今年度は、県内各地から選抜された黒毛和牛64頭、日本短角

牛43頭、ホルスタイン種69頭が部門ごとに、月齢に応じた発育や体格のバランスなどが審査されました。肉牛の部は、11月7日(土)に岩手畜産流通センターにて開催予定。

各部門における名誉賞は次の通りです。

出品家畜	部門	出品番号	名号	出品者
黒毛和種	個体の部	19	めい	高田泰義さん(宮古市)
		51	ふくな	古田健優さん(奥州市)
	群出品の部	52	きよひで	岩淵孝幸さん(奥州市)
		53	はなこ	鈴木勇喜さん(奥州市)
		54	きくひで	鈴木勝明さん(奥州市)
日本短角牛	個体の部	28	はなこ	上村信志さん(久慈市)
	群出品の部	38	わかはる	佐々木哲哉さん(岩泉町)
		39	ゆめ	佐藤文喜さん(岩泉町)
		40	さちゆり	三上武さん(岩泉町)
タホルシズ種	未經産牛の部	309	フロスベリー ハーバード ゴールド ラッキー	佐野茂樹さん(遠野市)
	経産牛の部	1304	スノーヒル インカ サンチェス	漆真下孝幸さん(葛巻町)

編集
後記

朝晩冷え込むようになり、秋本番を迎えました。「実りの秋」ということで各地で稲刈りが行われていますが、黄金色の絨毯が見られなくなるかと思うと少しさびしい気がします。10月は様々な稲刈りイベントが行われますので、11月号ではその様子をお伝えしたいと思います。

ます。2015いわて純情むすめも稲刈りに挑戦します!純情むすめたちの活躍はfacebookでもお伝えしていますので、ぜひご覧ください。季節の変わり目、みなさま体調を崩さないよう気を付けてお過ごしください。

(千葉)

岩手の花きが勢ぞろい!

9月4日(金)～5日(土)

いわてフラワーコンテスト2015

JA全農いわて花き・資材課は「いわてフラワーコンテスト2015」を開催し、イオンモール盛岡内イオンホールにて作品の一般公開および販売会を実施しました。

このコンテストは、県内花き生産者の技術向上と生産意欲の高揚を図るとともに県内で生産される花き類を県内外へ広くPRすることを目的に、いわて花と緑の普及協議会が主催する「いわて花の日フェスタ2015～花とふれあう3days～」とあわせて毎年開催されています。今年度は作品約230点の中から、北口和幸さん(JA新いわて八幡平営農経済センター)出品のりんどう(品種:安代の輝き)が最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞しました。

会場には岩手県花きの主力品目である「りんどう」「小菊」のほか「トルコギキョウ」など色鮮やかな花きが展示され、来場者の目を楽しませました。会場を訪れた人は「綺麗な花、面白い形の花を見ることができてとても楽しめた。りんどうにも色々な種類があることを初めて知った」と感想を語りました。



会場には色とりどりの作品が並び、来場者の目を楽しませました



最優秀賞を受賞した北口和幸さんのりんどう「安代の輝き」

養豚経営者の相互研さんを図る

9月8日(火)

平成27年度 岩手県農協養豚経営者連絡協議会研修会

岩手県農協養豚経営者連絡協議会による研修会が花巻市内のホテルで開かれ、生産者やJA全農いわて・関連企業の畜産担当者ら48名が出席しました。本研修会は生産部会やJA、関係機関が連携して生産・経営向上を図り、安全・安心で良品質な豚肉を生産供給することを目的としたものです。

研修会では養豚・飼料に関する情勢報告が行われたほか、平成26年度肉豚出荷成績優秀者の表彰式が開催され、JA新いわての農事組合法人八幡平ファームが総合部門の最優秀賞を受賞しました。

またその後の講演会では、農事組合法人野田協業養豚組合の若手養豚経営者である生平幸介さんが「元気と希望があふれる家族経営～生平家の人々～」と題して家族経営や食育について語り、「家族で技術向上に取り組み、良い豚を生産していきたい」と力強い決意表明がありました。

平成26年度豚肉出荷成績優秀者受賞者は次の通りです。

部門	賞	受賞者	地区
総合部門	最優秀賞	農事組合法人八幡平ファーム	JA新いわて(久慈)
	優秀賞	農事組合法人八幡平洋野牧場	JA新いわて(久慈)
	優良賞	FVファーム(平谷東英さん)	JA新いわて(久慈)
部門別賞	《年間肉豚出荷頭数2,000頭以上》		
	出荷頭数平準率部門賞	佐藤嘉美さん(第三団地佐藤農場)	JA新いわて(久慈)
	肉質上物率部門賞	農事組合法人八幡平ファーム	JA新いわて(久慈)
	ストライク率部門賞	農事組合法人八幡平洋野牧場	JA新いわて(久慈)
	《年間肉豚出荷頭数2,000頭未満》		
	出荷頭数平準率部門賞	杉浦秀朗さん	JAいわて中央
	肉質上物率部門賞	木村誠さん	JAいわて花巻(北上)
	ストライク率部門賞	斎藤清利さん	JA新いわて(宮古)

コメ販売計画を協議

8月27日(木)

平成27年度 第2回みちのく純情会

JA全農いわてと、県産米を取り扱う全国の米卸5社でつくる「みちのく純情会」の本年度2回目の会合が、盛岡市内のホテルで開かれました。

開会にあたり、大和産業株式会社の川上修己代表取締役社長が「26年産との併売環境で早場新米の販売が厳しい。パイヤーや消費者へ理解を得られるよう上手に繋げていく必要がある」との挨拶がありました。本会からは畠山俊彰県本部長が「純情会関係卸様を中心に、26年産米契約の目処がついたこととお礼申し上げる。27年産米もJA・生産者が丹精込めて作り上げているので、引き続き卸様・県本部一体となって販売させていただきたい」との考えを述べました。続いて事務局より、平成27年産米の作柄概況について県全体で概ね出穂は完了しており、民間調査会社の予測では作況指数104と見込まれることが報告されました。また販売計画については83,606トンの事前契約締結に向け取り組んでいることを説明して協力を



会合に参加した米卸の社長ほか役員

要請するなど、県産米の円滑な販売に向けて、意見交換を行いました。

第3回の会合は、11月16日に岩手県内で開催予定です。



家族に「水洗い係長」と呼ばれている生平幸介さん



各部門の受賞者ら

北東北JA-SS

灯油

キャンペーン

全農
もっと近くに。

灯油でポカポカ幸せな冬到来

2015 期間 **10/1** - **12/31**

抽選で総勢**936**名様に**ビッグチャンス**!

1 希望賞品を選択(応募はがきに記入) JA-SS賞	1 TIGER 圧力IH炊飯ジャー 炊きたて 12名様	2 JCB ギフトカード 30,000円分 12名様	3 ALINCO 3WAYマッサージャー Repro-リプロ- 12名様	2 抽選でいずれかの賞品が当たる のんちゃん賞 900名様	秋田県産 ハムギフト いわちく 高原育ちのフレッシュウィンナー詰め合せ 秋田まるごとふるりの味 3人前 青森の やさしいスープ 9食分
---	---	--	--	---	---

※写真はイメージです。

キャンペーン期間中に、下記①～③のいずれかを満たしたお客様に応募はがきを進呈いたします。

- ① 灯油を100リットル以上ご購入された方
- ② 灯油定期配達をお申し込みされた方(一部実施していないSSを除く)
- ③ ホームタンクをご購入された方

応募はがきに必須事項をご記入の上、

切手を貼り
ご郵送

JA配達員へ
手渡し

キャンペーン実施の
JA-SSへ
ご持参

応募締切 平成**28**年**1**月**7**日[木]

応募締切後、厳正なる抽選を行います。(当選の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。)

- ※お一人様何口でもご応募いただけますが、応募はがき1枚につき1口の応募となります。
- ※一部キャンペーンに参加していないSSがございます。ご利用の際は事前にご確認ください。
- ※お客様の住所や移転先が不明等で賞品をお届けできない場合は当選は無効とさせていただきます。
- ※賞品について諸事情によりお届けできない場合は予告なしに代替品をお届けさせていただく場合がございます。
- ※当選の権利は譲渡できませんので予めご了承ください。

※お預かりした個人情報は、本キャンペーン事務局にて適切に管理し、抽選・賞品発送・当選確認に利用するほか、マーケティング等の目的のため、個人を特定しない統計情報の形で利用させていただきます。また、ご本人の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。



青森県JA-SS運営協議会
いわてJA-SSチェーン
秋田県JA-SS連絡会

<http://zennoh.or.jp/ja-ss/>



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

